

# 大豆だより

第4号

令和5年8月10日発行  
西村山農業技術普及課  
TEL：0237-86-8215

**乾燥が続いています。かん水で乾燥ストレスを防止しましょう！**

## ○大豆ほ場へのかん水

大豆はすでに開花が始まっており、現在登熟初期になっています。この時期、大豆は大量の水を必要とします。水分が不足して乾燥が進むと、花数の減少や落花、落莢による結実数の減少、百粒重の低下など、収量に大きく影響します。

降雨の見込みがなく、晴天が1週間程度続き、土が白く乾燥した場合や、日中に大豆の葉が立ち、半分以上の葉で裏面が見えるようになった場合は、かん水を実施しましょう。

- ☑ 畦間かん水は朝夕の涼しい時間帯に行い、ほ場全体に水が行き渡ったら速やかに排水します。
- ☑ 30aを超えるほ場では、3日間に分けて徐々にかん水を行きましょう。
- ☑ 排水が不良なほ場でのかん水は湿害を招くので、注意が必要です。
- ☑ この時期は、他の作物も水を必要とする時期ですので、近隣にも十分に配慮した上で、かん水可能なほ場で実施しましょう。

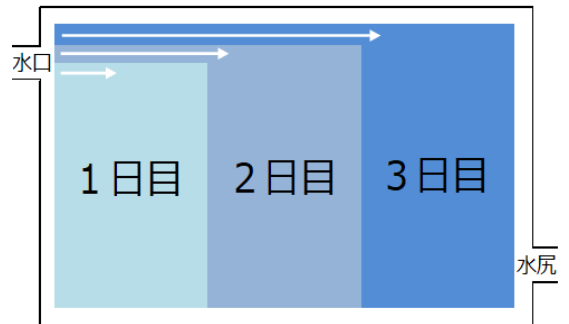


図 畦間かん水方法  
※30a規模の圃場では3日間に分けて徐々にかん水する

## ○雑草対策の徹底

帰化アサガオ類などの難防除雑草は翌年に種子を残さないことが重要です。圃場を確認し、発生がみられる場合は、速やかに手取りしましょう。

- ☑ 除草剤の畦間・株間処理を行う場合は、専用ノズルを使用し、大豆の本葉に掛かからないように注意しましょう。
- ☑ 大型雑草や帰化アサガオ類などの蔓を残したまま収穫すると、汚損粒の発生につながります。雑草が結実する前に抜取り、適切に処分しましょう。

**STOP 農作業事故！！あせらず、ゆとりを持って作業を進めましょう！**

**農薬危害防止運動実施中！！農薬を適正に使用し、農薬事故を防ぎましょう！**

**熱中症に要注意！！水分補給をしっかりと行い、適度に休憩をとりましょう！**